

# プログラミング支援ツール NP4H-SWN バージョンアップについて

## 1. 対象機種

IEC61131-3 準拠プログラミング支援ツール SX-Programmer

| 形式       | 品名       | 最新バージョン  | バージョンアップ時期 |
|----------|----------|----------|------------|
| NP4H-SWN | Standard | V2.3.1.0 | 2006年11月   |

## 2. バージョンアップサービスの概要

ホームページからのバージョンアップサービスは、旧版の Standard をお持ちの方を対象として、アップグレード機能を用いて最新の Standard 使用環境を提供します。

ホームページからのダウンロードにより、最新の Standard を容易に取得できます。

SX-Programmer Standard V2.3.1.0 用アップデートファイル : StandardUpdateV2310.exe

## 3. 最新バージョン V2.3.1.0 の主な変更内容 (2006 年 11 月)

### (1) 変更回路の PLC 転送機能改善

プログラムの挿入・インポート・貼付け機能を行っても、変更回路の PLC 転送ができるように改善しました。

### (2) ボードコントローラ オプションカード対応

## 4. 主なバージョンアップ履歴

### (1) V2.3.0.0 (2006 年 10 月)

#### ① システム構成アップロード

オンライン接続時、システム構成情報(モジュール名称)を復元する機能を追加しました。

#### ② データのテキストファイル出力

リソースフォルダ内に存在するデータファイル(保存機能で保存済みのデータファイル)を、ユーザが指定する任意フォルダにカンマ区切り(CSV 形式)のテキストファイルとして出力する機能を追加しました。

#### ③ 機種間カット&ペースト機能の改善

MICREX-F からのカット&ペースト機能の改善を行いました。

#### ④ セクション命令のタグ対応

セクション命令にコメント(タグ)を設定できる機能を追加しました。

#### ⑤ 初期値のテキストファイル出力/読込

初期値設定リスト機能で設定されたデバイスの初期値をカンマ区切りのテキストファイル(.CSV)に出力する機能と、その出力されたテキストファイルを読み込む機能を追加しました。

#### ⑥ 初期値設定リストの入力切り替え

初期値設定リスト機能に初期値の入力方法(10 進入力/16 進入力)を切り替える機能を追加しました。

#### ⑦ デバイスクロスリファレンス印刷の改善

デバイスクロスリファレンス印刷でタグの同時印刷機能を追加しました。

#### ⑧ デバイスクロスリファレンス情報のテキスト出力

デバイスクロスリファレンス情報をカンマ区切りのテキストファイル(.CSV)に出力する機能を追加しました。

#### ⑨ 不具合修正

SPH300(NP1PS-245R)にて、マルチCPU構成で使用した場合、オンライン接続やグローバルメモリのモニタが正しく動作しないことがある不具合を修正しました。

### (2) V2.2.4.0 (2006 年 8 月)

#### ① サーボシステム FALDICA ALPHA5 に対応しました。

#### ② V2.2.3.0 の不具合修正

SPH2000(NP1PM-48E/256E)にて、FTP アクセス機能が使用できない不具合を修正しました。

### (3) V2.2.3.0 (2006 年 5 月)

#### ① 配列/構造体定義のインポート

配列/構造体の定義情報を他のプロジェクトから読み出す機能を追加しました。

②パスワード機能の拡張

PLCオンライン操作の制限を設定する機能を追加しました。

本機能を使用してアクセス認証用パスワードを設定することにより、PLCへの操作をレベル1、レベル2、レベル3、の3段階で制限することが可能となります。また、アクセスレベルによる機能制限をすることもできます。

(4)V2.2.2.2 (2006年3月)

①不具合修正

リモートI/Oマスタモジュールを標準モードで使用している場合、スレーブモジュールの構成状態により、I/Oメモリを正しくアクセスできないことがある不具合を対策しました。

(5)V2.2.2.1 (2006年1月)

①機種間カット&ペースト改善

MICREX-F、FLEX-PCシリーズからの機種間カット&ペースト機能の改善を行いました。

②命令追加

マスタコントロール、形変換の命令を追加しました。

③グローバルカウンタ/積算タイマ

全POUからグローバルにアクセス可能なカウンタデバイスと積算タイマデバイスを追加しました。

④ラダーエディタでの強制設定

ラダーエディタ上で強制設定を行う機能を追加しました。

⑤SPH300ファームウェア対応

- ・ I/O領域拡張機能 (V\*\*64)
- ・ 縮退立上げ時間短縮機能 (V\*\*65)
- ・ 強制設定状態継続運転 (V\*\*65)

(6)V2.2.1.0 (2005年11月)

①配列・構造体の対応

ラダー言語、ST言語にて、配列・構造体に対応しました。

②システム定義ガイダンス機能の追加

ガイダンス機能を追加し、操作を簡素化しました。

③MICREX-F機種間カット&ペーストガイダンス機能の改良

MICREX-Fプログラムファイルを開くと同時にコンバート実行するように改良しました。

④ボードコントローラ対応

ボードコントローラに対応しました。

(7)V2.2.0.0 (2005年8月)

①グローバルタイマ

全POUからグローバルにアクセス可能なタイマデバイスを実現しました。

②命令検索

全POUを対象とした命令またはユーザファンクションブロック/ユーザファンクションの検索機能を追加しました。

③デバイス使用状況の改善

補助機能のデバイス使用状況機能に、ビットデバイスの使用状況表示の際、ワードおよびダブルワードの使用状況を表示するように改善しました。

④クロスリファレンス付ラダー印刷の改善

POU種別/POU番号と回路番号から構成されるクロスリファレンス情報の印刷効率向上を図りました。

⑤機種間カット&ペーストの改善

MICREX-F PLC Programmerのプログラムをクリップボード経由で

Standardに貼り付ける機能において、貼り付け未対応となっている命令のうち、13命令を追加対応しました。

⑥システム定義 未実装操作の改良

1クリックでモジュールの実装/未実装を切り替えることが可能としました。

⑦SPH2000対応

新系列CPUモジュールSPH2000に対応しました。

(8) V2.1.1.0 (2005年6月)

- ①FBパラメータのアドレス任意設定  
ユーザファンクションブロック/ユーザファンクションのパラメータ設定で、パラメータ番号の自動割付けを止め、ユーザが任意の番号を設定できるように変更しました。
- ②PODモニタ用ラダー情報出力  
PODでラダーモニタを実施するための情報をファイルに出力する機能を追加しました。
- ③S×通信ミドルウェア用デバイス情報の出力  
[補助]の[デバイス情報の出力]機能にS×通信ミドルウェア (NP4N-MDLW) 用の情報を出力する機能を追加しました。
- ④デバッグ機能(ブレークポイント、ステップ実行)のS T言語対応  
S T言語画面で、[ブレークポイントの設定]、[ステップ実行]の機能を追加しました。
- ⑤S T編集機能の改善  
S T言語のプログラムで、登録済タグの検索表示機能、およびタグ入力によるアドレス検索入力機能を追加しました。
- ⑥ズーム機能の改善  
ウィンドウを開いた状態(ファイルを開く、新規作成)の初期表示倍率100%固定に対し、表示倍率の自動計算、表示倍率の保存機能を追加しました。
- ⑦ダイアログの表示位置保持  
ラダー言語エディタで[アドレス入力ダイアログ]または[パラメータ入力ダイアログ]を開くときの表示位置を保持する機能を追加しました。
- ⑧機種間カット&ペースト(MICREX-F)の改善  
MICREX-F のプログラムからのカット&ペーストで、ファイル命令をユーザファンクションブロックの呼び出し (USERFB) 命令の形に置き換えて貼り付けるように変更しました。

(9) V2.1.0.1 (2005年3月)

- ①FBD表現の追加  
FB呼び出し部をFBD(ブロック)形式で表現する機能を追加しました。
- ②パラメータ設定画面でのパラメータ名称の表示/設定の機能追加  
パラメータ設定画面でパラメータ名称の表示と、任意の名称に設定できる機能を追加しました。
- ③編集機能の改良  
折り返し回路、ガイダンス入力ダイアログ、パラメータ入力ダイアログ、FB呼び出し部の展開/折りたたみ表示の切り替え等の改良を行いました。
- ④命令パレットのデフォルト共通タブ項目の見直し  
インストール時(デフォルト設定)の命令パレットの共通タブに設定する項目を変更しました。
- ⑤データ変更  
ラダー画面からデータ変更を行う機能を追加しました。
- ⑥SPB S×モード対応  
小型PLC SPBのプログラミングに対応しました。
- ⑦オフラインでの故障診断機能  
オフラインのプロジェクトを開いているときでも、故障診断機能を使用可能としました。
- ⑧RS-232Cポート番号10以上対応  
RS-232Cのポート番号を、1から256までとしました。
- ⑨S T言語対応  
S T言語でのプログラミングを可能としました。
- ⑩プロセッサリンクモジュール最大構成数拡張対応  
プロセッサリンクモジュール (Pリンク、F L-net など) の最大構成数を8台へ拡張しました。
- ⑪「CPU”0”なしシステム立上げ」の対応  
システム定義のシステム動作定義設定に「CPU”0”なしシステム立上げ」設定を追加しました。
- ⑫「縮退保守禁止動作」および「故障状態表示マスク」の対応  
システムプロパティのシステム縮退立上げ動作定義に「拡張設定」を追加しました。

## 5. 従来品との互換性

今回のバージョンアップによるプログラムの互換性は下表の通りです。

|                   | 旧バージョンで作成のプログラム | V2.3.1.0で作成のプログラム |
|-------------------|-----------------|-------------------|
| NP4H-SWN 旧バージョン   | ○               | △                 |
| NP4H-SWN V2.3.1.0 | ○               | ○                 |

新バージョンの機能を使用したプログラムは、旧バージョンの Standard では使用できません。

## 6. バージョンアップ方法

- (1) パソコンのハードディスクに任意のフォルダを作成します。
- (2) 作成したフォルダに V2.3.1.0 用アップデートファイル「StandardUpdateV2310.exe」をダウンロードし保存します。
- (3) ファイルをダブルクリックします。(アップデートファイルは自己解凍型圧縮ファイルです)
- (4) 作成したフォルダ内にファイルが解凍されます。
- (5) 解凍したファイルの「Setup.exe」をダブルクリックします。
- (6) インストーラの指示に従い、インストールを行います。
- (7) インストールが終わったら Standard を立上げ、「ヘルプ」メニューの「情報」にて、バージョンが V2.3.1.0 になっていることを確認します。

## 7. バージョンアップする際の注意事項

- (1) 本アップデートファイルは Standard : NP4H-SWN がインストールされているパソコンにインストールしてください。
- (2) 本アップデートファイルのサイズと実際にダウンロードしたファイルサイズが異なる場合は、インストールしないで破棄し、再度ダウンロードしてください。
- (3) 実行中のプログラム (Standard、メッセージマネージャ等) を終了してからインストールしてください。
- (4) インストール途中に何らかのエラーで処理が中断してしまった場合、再度インストールしてください。  
再インストール時にエラーで中断される場合は、お手持ちの Standard のセットアップ CD で旧版をインストール後、再度アップデートファイルをインストールしてください。

プログラミング支援ツールのバージョンアップは、『Fe library』のページからダウンロードできます。

Fe library ENTER